粉程で

小粉

西 |叛軍

一裁判闘 争勝

争

勝

利

全

利

程阻止!日韓法的地一入管体制粉砕!入管

位法

協再

定上

九) これなりの資本主義の発達を上からの可愛的表して等)に対する役事的 経済的 原南をもつてテゴスを懸奏と傾向に右派政策(荷田・台湾・インドネンな法は後進間を要添の民権単数研令に対する保護など、

侵

略

前

基

作している。かかる代表的現実に対するブラグマチ 危機と非同要中立結果の資表として左右の対立が激 かわらず先遠国間分業の下にとり残され作権的基務

外派

兵

阻

止

次防

隊

拠定する所に張入の患代世界認識の基本配性を置く、関が商品経済の一型関としてその歴史的類型形態を

と共に、その巨電命政治が戦後、崇彦を中心と

かかるすぐれて労働者関策の地立という政治的要を巡邏に領事外突誘導として行われている。

の共 ょ

として

の粉砕、日米はして建設せ、

粉砕!日米共同売出動訓練粉砕!

声明

粉

りゆる「引権民地主義」といわれる後地権民地国の方取り均衡、平和共びを整持しつつも、基利団はいたを関係、不利共びを整持しつつも、基利団はいたのが、有域を完善した。

帝

国主

会を地区 : 闘(以の軍隊建設・叛ぎ上義軍隊解体!

軍

行

(ソ ビ

工

拡大も反談命両線消費として表現され、帝国主義のものであり、不均等花葉を呈して各國の対外膨脹の比例として管理通貨制・関係性の限の法持もあり移

軍入管暦争スロ

1

ガン

北た邁総綱世界においては帝国主演は共同の反叛命に第二次大戦後の「労働者国家」寿の密集に紹介を

をもってこれに対処せざるか科学安保・NATOに

学連拡大中央委員

の会長として経験するというなは東の帝間の着に対するに帝国の差異様を長期一項民党類は、それをテフロレタリアートの権外主義的差別をし、それをテフロレタリアートの権外主義的差別をし、それをテクラを終めるという

産

主 義 青

年

同

盟 全 国 委 員

便三妻 というゆがめられた婦子

らすっています。 では、大き脚手において支持 いかなる内実と影がにおいて支持 いかなる内実と影がにおいて支持 のづけ、入き脚手において支持 のがという技太関東を回避し には旧規を付たる中様派であるができるが延續的には明規を付える行文っているのが延續的には劉道漢な母様的な方ッチレび大名類、「会影迪」なるデッチレび大名類、「会影迪」なるデッチレび大名類、「日本の免耗的に収約しなから、「日本の免耗 された会国会美国の名をもって探 トの町目前度義をも一斜前に額取 このような群小道標やノンセク 単の如く減う諸党家となれるい、八號開発一 の音楽的言効性に並かれ陸級闘争の現象的世界に辞 ソビエト 9

以上述べた問題の原原を前にして確認しておくべ 帝の 渡 期世 動向 日太反南戦 時に現代帝国主張の係務民革命を高証しニプロック **善に対する批判の武器ともなったのであったが、同** 理を添かんとする示質液をはじめとする自由可規的 極定と、歴史的=歴測的解明としての政院権(とり "鉄の法則。 と提え原理論的に依法主義の知識の原 線中央經

的止拗を克ち取ることが出来た。

と日

革命戦略論 世界一 玉 同

「対象の様によって、」 「対象がます」 こことのようには、対象の様によって、対象の様によった。 「対象の様によった。 「対象のは、 「ののので、 「ののので、 」」 「「ののので、 」」 「「のので、 」」 「のので、 」 「のので、 」」 「のので、

「特久壁路」の枠に組み込まれる可能性があり、運一分略は例えばヴェトナム般等という外的インパクト のアテハメによる、ソビエト或組織ではなく は荷賀解体を至って旧将使を利用して守保建設を押

び展開されてきた人管対争は現本にとって如何なる「魅力闘争の攻をもって湾おうとしている派人によっての当かれてきた人管対争は現本によって根保関係とせ、的武旻カンパニア闘争」とは、七〇年代陸型闘争とせ、的武旻カンパニア闘争」とは、七〇年代陸型闘争を

そのある。すなわら、行り年代を推力超季の数をもって、 人の動から気言しなければならない、ということで、 人の動から気言しなければならない、ということで表

れが始めば歴義的なとうであったとしても、表謝うというととは、本格的な権力顕彰に向けて

ら、自からの権力臨体の領別を物質化していくので

(3) かかる総務的課題選行にとって叛衛闘争と並へと再獲してゆくことが総念の課題である。

総置をしめたか。

(民に対する「民族的分析」とし

のである。 剥布必要とされているのは、 暴容のため でとの人所〉の宣言を受けた選去の剥奪でしかない

と結びついた暴力の智能化である。

以上の如き途跡・智徳消費の總指から終き時

外主義の形成をもくろんだ飛ぶであり、使って我を

る民活命・侵略としての国内西橋の重要な

であった。この事は朝鮮人に対する石護の祭行等に

命的記憶を前期的に独物することが問われていたの一有した「他物的武芸顕彰」を提起したのである

体、革命の正規崇削は、ソヒエト理種連の開催)

なる前漢と、関係部(安は専門部)を通したB条在 行委とそれは金融とした全部人警外制労権適勢の更

表演専門といったイメージは部分 略的な男いとしての整権をも職長着する事となろう 解体ー市規律建設ーソビエト型組織建設を前提的に 言るを得ないが、すぐれて表質関係に引きつ のあかつきには闘いの世界性を登壊化する斃れてい 調剤等とは相対的判例のサイクルをもって提起さ て同些的に割われるべきものであり、更に扱え Ⅳ六○年代型

を立る人工下に対する地を開とし となる人工下に対する地を開とし ての政治・領事指揮生の発揮を一 での政治・領事指揮生の発揮を一 初めて気行される機能として飛来 武装

0

限

争 入管、 Ō 位置 叛

・ 本経験・企業・中国・中国ではじからした会団は、で、本経験・企業・中国・中国ではいからした会団は、大学を決しつつったれる会団が提高等をに戻るす。

「大学を決しつつったれる会団が提高等をに戻るす。

「大学を決ししつつったれる会団が提高等をに戻るす。

「大学を決ししている。」

「大学を決ししている。」

「大学を決しいる。」

「大学を の領導外送熱無にともなう立川・横田・三沢・長名も既由もそこにある。われわれの頻繁調券は、日香われわれが頻繁調券を完軸にして高関係を提えてい 認動組織構造を描じて表現するのかという事であり て、或いは帝国主義列岐における依頼の同度称をも的には コニブロック際 級群等の形更的 結合をもっ としても、主体の転機が強れて、 密觀觀的条件一般でしかないのだと いうことが ことは、その場合の世界同時第命表現の依頼的条件 「機器型的解を、型布的には終病、止勢して、世界同様のは、世界局が大きないまって、色養くもっていた必要えば、然格については、第二次プンドが「政治」 しては、男人の拘禁するプロレカリア世界政命は交 にわたって説明し、女人変化しつつある。 養本主要が自から招志する危機を前提的与件 (「理感」九号) ここから、「世界同時率 日本

梅の郡廷を核介として、突休的に物致化していくもる。以上の他略次元の機括之野えて、次に影略を軽 のとしての逐動、整練過微量の簡単な技術を展開し

を数 「明能し、一方 (国内的には) このような保険収益 ・アクテの撃士日常は、この防東南マラアにおけ ・ 変 日常娘子を見るがその会議を(かを上下をつ) ・ 変 日常娘子を見るがその会議を(かを上下をつ) 四金数語派としての流化を二次防→四次防として推

いく」(「歴念」九号)

(佐婆蜂する) (佐婆蜂する) (佐婆蜂する) 諸党派 60 年代型 の 混

でのヘゲモニー参い=再動として整研されている。して形成され攻治戦事的には国際反議命同盟の神内 現在、アジアにおけるこの回路反革命回撃の声義 監戒官機構内部での各国伝田主護院の館事・対立 慌化が、72年沖接交産を一 つのメルクマ ールミ 現代過度期世界における帝国主義間の矛盾は、 次に現在の情勢の簡単な把握をおこなっておく

の雅化を招き、かといって反革命介入を強化 て、進行している。 て会開的に登場した米倍は、ベトナム人民の不思の 『65年北揚の開始以来、アジア反革命の聚主でし

相写規定的関係をもって、七二年沖縄設置を一 めた。このようなものとして打ち出されたのか、 任アジア在外法途の類小、現地政権への等行兵士の しをほかるものとして概認された新アジア要略に と下ルの力を背景として、参力層の弱雨、 米術との「共通の形容」と「独自利答」と表有し

集してしまったのか、である。たしかに、戦務的に、日共は本軍七月の第十一団大会の内容にみられるよを挑談することではなく、何定者効性=集争権が表したとにも、党封帝以来の後継にただされている。 たのであるか、しかしとれだけでは野遊の間に対す も、暦子に中枝蛇にあってに、六九年明夏朝やの妻としたは京帝」の会域によって「大衆的武義力とは発来者していた常勤を上示帝性を差別し、れている後来の政策学一彩 国内の会域によって「大衆的武義力ソメニー 践り下的存化となっている。八寒美勢として形成さした。 か展請できなかった。この「大」〇年代管板図名の意味が一切です、在人概念の色を カンパが、六〇年代暗級闘争の総括をなし幕子、幾つて七た目的一般にして、我人以外の原制「左翼」、「新左翼の会で やつかいものに次らない関手(宇宙と民主を裁)の 以上みてきた日帝の領事外後略戦の全郎的展開を まったくの機会主張へと右腕化し、もはや社

過

り敷厚・情傷野合連合物に対する難いのみならず、 したものに他ならず、「理論解析の号」に対象 でれを通して義々関係の自己切断、自己止得をめざ

るを元にかった。この事はもごよ

動の全理的規定としての原理論における経済法側の制的適用によって、 資本主選社会における発法と側の

9 19防衛庁解体闘爭に総結集し、 型組織の建設を更に進めよ 決起集会基調報告

さて骨質化するさが関われるのである。 でになく、「機材での存在するまで創る作品プロー現在からの低級的影響調学を通じた終ー度・第一級「機会機がそれとして受討れトンボのようになる」に一般的な「統令機がそれとして受討れトンボのようになる」に一般的な 統領主権力条款を追応するのではなく脱金の代議を対象化した水産機能に対ける作問的「機・率和」を表表した自然機能的プビエト形成の上 いう形をもって表現してうとも、音楽の意動技法に打出すとととなった。即ち第一には音樂物体を表 ちに逮捕する字により一時郷力奈原から関内祭 されて、現窓選っとしては南部には これが世界第一世界次曹、世界三帝統一物域の 一個関助派命と内様与世界統合略派につい 角命戦・解体・肝頻節懲役・ソビエト观響機就決を動としてされた。でに七月人1日結成大会は第でも明らかな如く情報が大会は第でも明らかな如く情報がは、次の段階として指えられていった把握はす のだが)ことの帰頭が次に表求される問題である。 養ってわれわれが日帝を打倒して中で樹立・前に東較路の日本への直接的が用を増している)。 よって地区共闘を単なる暗所団統一総察としてでな・重要視している事。信当にその事をふまえることに 力解体を多数表集命から完全に明書散ら正規問建設 いた各人の原情をトータルに把握する系統を持つこ として組織的に表現される外的インパクトを振めて 一きょに打倒し籠ちにプロ独を全 OID 恒常的武装関争の第一段階・第二段階級いは 語を示しているのである。かかる程点から地区典研究争を信用的武器関学として問い抜くことができる えているれではなく、かかる主味となる運動も改築服务の仮影化=反答関係としてわれわ つてれた領촉しつる間いに他ならない。しかしながった総う反映製等の自然発生性と最も関く結合しか めざす正規軍産設・ソビエト型規策産齢を 化しうる使れて栽培的関争であり、日前の長期

人を通じた魅力機等の世格はいかなるものとしてあ 優略・反対の 複雑的政策解析が一体何や実現するのか、そ たまである。 立のか、するれて日本生命を終の内容規定が提示されまで、反応をある前機とした経管和等の背板は追回反 侵略・反革命のアジアにおける要として日本帝国 をめぐって党

透り基が進行していったし

現在も存在 祭に強刑主義の克限の問題として地区共闘へ

は、大きな世代ので見らなり上上へと記る。 電電線 という 1 日本の かんから 1 日本の かんから 1 日本の >内盤 著命領事行動としての目衝球の出動体制の維持に向 格を持っている事を考えるならは無意外が略壊とし もはや水柏外炎を通して最適関の経済発展を保護す自衛膨胀治を発して一層緊張するアジア活動の中に るといった歩をもってしては決して対処しる における無常的民義必事の発展は一層ブルジョア権

び映刻の義、羽常的に完定された中を事情など武装蜂謡の区別が、展半峰地をもてあ

た自己批判が総体として関われて

クス革命論

0

本質

論

的解明

回

大会の

限界

Ó

いるからにほかならない

危機論型戦略の止揚に向けて

(3)

等による第二次共産間の出発を O・八羽田以降の国際階級闘争の

れた暴力」を参照に利用する。れた「革命論体系」の不一致が明れた暴力」を参照に関する。れた「革命論体系」の不一致が明 みた如く、そもぞも、あの六 との党内領学は、一般的な 代際級闘争の状態的転換を促一般行の党」におけるその内容の不みた如く、そちぞも、あの六 との党内領身は、一般的な「戦略た大同大会選条の内容は、前 高揚を背景にしての、旧マル戦派

れた「革命論体系」の不一致が明

岩田「世界養本主演論」を系監

ここのかということまずるって主要

防衛庁全国七基地 へ地区叛軍行動委員会創出を

攻擊鬪爭へ陣型強化

西部

百余名を結集しへの・は地区集会と

マトの何恋議者にの人類せられているのである。 に下、今日代記念書行とる。 は、今日代記念書行とる。 は、今日代記念書行が多り、ただ二 をまれているのであり、ただ二 をまれているのであり、ただ二 をまれているのであり、ただ二 をまれているでもあり、この ・ はな頭針行が著具会が、この ・ たれていっていることを確認してい 一参切り折くことが50にボヘルメー参切り折くことが50にボヘルメ としていかに弱い抜くのかという。 たし、大ちの機関を本紙上等においてなし、とこでの水果は、蒸気。のできたし、そこでの水果は、蒸気。のできたし、とこでの水果は、蒸気。

首都

19

防衛庁

、北京大等の礼標の敬電行動委北海道は長沼田争を北大ー礼徒

川では高校生を中心にして衝勢が

一・九朔季への寄 池のための禁 ND信内暦を一党漢郡等の総指を した経療活動の収約と、九・一六 ととが不可差であることで、RU

先物に電地する時が来た。今夏七 し 再び全日本で一斉に階級競争の総 本

ット」の男委 | 員会を組織し、その赤ヘルメット | 会世界に帰 | 機線が、その下に蛯皮板畑行際委

●登請機様とと た。次々と接機に立った同志は、 記書語書/四部 集で結婚範疇的な由で完善取られ

B に立っているかのようによるでも のとればトロッキーの種類を世 を表示したるものと が、表示者の密線を保証したるものと のにならなかったとしてのこの・三 のにならなかったとしてのこの・三 の不均等指置」の担らえ方におけ 言に、そのことは「特国主義 表展」を急騰したことの把え受し 「帝國中漢籍」が、係関主連的等 現実の場形の解明として「不均等 現実の場形の解明として「不均等

神奈川

首都

結集

防

衛庁

〇名であるにもかかわら子我々の 概念入室事務所に同けてデモを開 概念入室事務所に同けてデモを開 をしたのである。 権力は義々が三

神奈川反帝戰線決起集会

受している場事的質に規定されて を関連や指摘車・維動像をも動養 が、
を関連や指摘車・維動像をも動養 が、
のたのみならず、
る版一の数名を のたのみならず、
ののである。
そ

の部分権として、第二に「帝国主

として現在的に抱え来されるべき。 総じて最も国際かつ重要な米特分娩討や、米特が日待の対立という 題)・日帝の対立という図式の特 て下しまれになるれること、一た

られるととは始めて、会世野を取 が必め後をとの場所性においてと 一般地とかず世界経合競争の歴史 在計画に変かめ合す水粉世

第一年一班向教告第一教徒。 斯

画 概形成の一元化。 一面 概形成の一元化。 一面 概形成の一元化。 一面 概形成の一元化。 郷外主義の間宮だけでなく、 断落 是要請求的、並供・民族主義

中部 九へ政治的 中樞 に同

で教養関係の提供口及切り招いて

いこうではないかく 以上の報告を主まえ、小国各地

ノ 中部地区反衝散域より、銀音、緊診を瞬間に引用し、七十年代の校派の何素結構! 除無罪妄論書 に乗り切らんとする部分の景楽的 ついっぱ 今秋順季本政治技術的かつ主要的

医質的に容易したことをますもっ、代を信告的武権闘や非常国主法領 恵宗な糸にはあかれた反抗権政が、一番の 全人民的政治関係を担うな人民的教治研究を担うな人民的 恵中郡形において、今や、一系の 全人民的政治研察を担うな人民的 プントの歴界性を育しつつも新命 エト或種類應證を以って初めて参て教告したい。まさしく、第二次 陸際体ー薬命の正規策建造ーソビ

る傾向を使れえなかった。 かかる最終は、第一にレーニン

を そって、それへのプロレタリテ的 主要的社会再編」として対域の多数であるとして対域の多い。 その国際が表明されるのであり、 一番って、それへのプロレタリテ的

対決する政治部からベトナム反称

であったのである。

さらとして、一般のでは、一般ので

返開年命を赤のレーニン以政時でる的いとして患在し最高する

との供給は、抵治国軍事以完命政

因用書記的思格及首

局要内部から「月米総予急」を生

きにしても、帝國主義団列的によ

意志 致を を兼領別学を船とする貨幣的武器と を動料を見目に、開催に今款到手 に配容したわれわれば、こうし 八り乱れて完後闘等を行なって と党部闘争の一体的統治構造を意

命を描いてない。 リアート人民に対する経験、反応 唯一、極東・東南アジアプロレク

日帯はこの発酵度和香や栽倒的

世界第一世界赤冠一世界反帝統一を同時に、この反帝統一般様子、

いて、彼らのような発管をかかまわれわれは反待務一般勢内部にお

とんでいることを、自己の語さの

左翼とは警の無機の地平にいる。 的に階級形成を関与心としてい していない入管問題をもって周由

の再動、恵に国指を越えた所根制

入管側の思へル 指着に拝隠して

大を対象化し管理化しなければな

もこれまで整数してきたととろ

調圧・被抑圧など

である事が党」として 地々し に構え、破産の容易を許さす。 「使事を事が党」として 地々し に構え、破産の容易を許さず、選 ・ 15月20日 しソビエト問題種の中核体として「でいる。 観惑治清ノ 製茶な労働主送薬が紹のそれをケン引し続き「関季の原則指領へ大担にとり組ん せ 勝振の下に、中部地区を埋め尽く が販売機器に対信せるプー芸術な

AIF 八○を結集 L \ 9 · 16 V

19 ^ 総決集会

生業的社会秩序の研立をもって、 に目標の七〇年代の契認は、将田

物質化製作に入っていると 圏北市地区においては音人

(一)「帝国主義領域局体―正義」 一台にかえたい。 一台にかえたい。

が、 田を売も取れノ」 「田を売も取れノ」 「田を売も取れノ」

に日禄の七〇年代の契約は、何田 の神を越えるものでは次い。明確 に日禄の七〇年代の兵後祭外守護・アオロ平 の神を越えるものでは次い。明確 入管問題は言さに、とうした日 しく提出した。若して、この筐 とかできるのだということを語 統一戦視丼機の内張を完ち取る が空谷仏の如く整配している反義 区共四へと反情報一職様を しわることによってのみ、

道語道とするとこの地区共和州が規則した。教室賦予を過程的な それであり、我人は報題行動漢字 主要な通動担益男体としてこの情

上でもない。我々は、その方向転を平ってやらればならぬことは言うまで、我が月UND-AIRが完軸とない。我々は、その方向転を

命戦争を担うことのできる問題へ、関紅な

の七〇年代でもある。 疫情熱一機様の蘇命的評糊は、

そういった目標の初刊に対抗する **薬的な総形物を含欲してきている** メルクマールとして社会の帝国や

と目的環境的に再制していかわけ

の情念を、権力闘争のその日に同 が命的プロレベリアートの哀紅 が命的プロレベリアートの哀紅

---たかのであって、カ・一八 とうした中にあって、カ・一八

変 することは出来ないこと、十千年 の することは出来ないこと、十千年

として関いとるためには、かかる

か不可差であることで、HU

リア自己等於の難いを提所的=第一要的に海道している機能地区反情じて必要的に組織化し、プロレター=一九期華へと公力景を挙げて突 の政権における書も中心的左右分 在間に角徴している日本反音樂館一般様は、九・一十九・八間季を活 合国の同志への客い流帯の接近を一層な歌志統一のために、橋ケ谷区

大会議会の商党修門比しての戦略 的機位を、その姿姿の中に防災が ・ 空薫論」の直接的アテハメを、たい。 空薫論」の直接的アテハメを、たい。 空薫論」の直接的アテハメを、たい。 さえば次のような行女においてはい間 るかに 様々でいるとこが 示され 地緒 る。

」 しながら、たし新し的に外を代し 内在的名様を、1MF機能を防御 ・ 現代帝國主義は、帝国主義の る。これが現代係限主義の登浚団を勢力限を最適関に拡大(長略)す 店場分割除一は路の形態である。 **専技院の政権を通して、帝国主義 である。七回大会―九明大会に会** 英選国際政闘等との関連の中で関

第一にそれは「世界開始活命」

明さらかにすることを追ったので

と成金とならするを表だい。」 て、モンマ とれば「電路 南京都」 田子の高級をおよって、経代間を乗り、電差をつつつ。それに長さたといった。 金の「大学代質を乗り、電差をつつつ。それに長さたといった」。

年ID・II一助将庁原学の圧闘的

時代は明らかに帝国主義を養否を、おり、べき資産は日本労働者の基との表生のの表生のの政府者の「皇帝・孝本・助明大学が存在してとい野さのである時代の所政府者の「皇帝・孝本・助明大学が存在して、」とは「皇帝 ろうという洗濯表明を落室

将島場でも開き学院の企利料を必 大戦的に確認させた、関東後院技 の関係以降、西度赤ヘルメットを 道路的の担に話て、昨年の水田と るという力強い決意波睛の母、関 質問等と聞く符合して複数形式関 故に帝国主義の学問があ者に提供 も密集した地域であり、であるが

あうシーの日舎に生死を

参利の日金で生死を かけて 関か

のである

於に向けた福一波関争を資献し のような中で我々は帝国解体、

ルと攻撃的ブランスデモを持って戦引、入警告隊のショブレヒコー

だと語うて軽い後いている。今 英帝忠と英語の道等別り録こう 飲助注意音を一年三つ月日季音 先輩屋の複響的医契相等という 平が切り割かれ、

でからいので見ち 政治警察 拔 との組織戦

※と朝心情報学説を見去の世と を添ら変かねばならないし、多様が同的かけなどはず、課物世 して、政治素質との機に望載が、建物性 して、政治素質との機に望載が、十二年を目前といるの類に与えてくれた不動の とする表とは、七二年を目前と して、政治整察との他に担政をくかかび、内域『世界革命教会とする表えば、七二年を目前と・自治院院体のスローガンを承 共産同議長さらぎ徳二の様心である時 お問めよう。われわれる衛平と 主土体的に切り即き

芝命にかけ言言不当の或が懸か わばならぬだろう。この鉄火のしちとするのは、割分の一年之 くの関語が七年以上の相が受け ねばならぬだろう。この鉄火の 試練をわれわれか突破しうる気

う。 ※拘にて、から変化

お野の他が出版的であること。 の野の他が出版的であること。

学への組載化を全領的に展開して大等決起集会、十九日、防衛庁廟 ていたらくぶりである。まごしてっカー破りに血道を上げるという おり、これに対し明学大に残る子 名の恢复の諸葛清は、音學大板館 **そして、十八日、日本反帝戦緩由** との党派闘争、又、それ以降の学 士五名の支援の下に、我々のステ

切ないがしろにし、必難当然におりては対応といいしろにし、必難当然にお 皆 <u>東新的な行動が勢につきまとうの</u>
に われればならぬのかといった緊張 帝国主義者のいかなる弾圧下で開催を持ちいかなる弾圧である。

叛旗派最後の砦を解体 を孕む党建設へ進撃せよ

バニア闘争の夢と幻想を頭の中で は、舞やかしい六〇年代武装カン プントなのであらうか、益非問か の機がインテリプントで都が大型 るのであるが、そもても、無難 だ」等とまるでオニの首を取っ ブンドー大学プンドなる概念をう を有するかという事を一切ぬきに くり上げ「これが、我々の祖・豫論



券へ九軍団張牌を観軟らす(6.20明治公園)

いかに有望的、以動的なもの小理 質はその意味では常は第の地名地 して発型場場という最大の政治に しかもどのような関手は新平と

うな完全面質の派母、それに対して通訊的な攻防器がくり無けられ しこにおいて、

でしかなかった

の各内室であり、数大は差1次共一である。 大名墓跡が日光を宗命間「七書を上く様月地陸正統の付法はられが明本には帝原はが漢称して、わが周墓をはの民を明な立ち表が一元、日太兄帝総規を原語医の哲会のの表 に といった (1) 大阪神であるけれど 一次に、それは、神事系地における 一 安全は年華大郎するから始めら または苦寒にも | 米初事信へむけて、デモンストレ

明察に述べた。白へれの補稿は、 押も売わらず「沖川西海、長路を

型の卓容易から、九・一八人管理

整後に、人管体制形殊神声の行

当団は我人のへかモニーのあるが 動芸員会を創出し、単在

一への結集の呼びかけを受けた。

四六版函入 四〇〇頁

民族理論の構築が、斬新な着想をえて 著者のライフワークーマルクス主義的

現代評論社

東京・中央・京橋 3~11

みだした。

曹操な信息・次共直開へのかかわり 旧明学支部キャップな名の

に不均衡を有しつつも同盟内報度に不均衡を有しつつも同盟内報度、旧社学同期学大支部は、内部・ する一定程度の批判が当じ、本保問題で支部内部に被脱プラクに対 昨年十一月のいわゆる「熊関団」 黿 暴挫になって現出しているのであ

念で振り出された階級を、アプリし、社会的階級等という神津の説 潤られているが故に、 それは全く 蒸物を欠其させて、階級形成論が しく、行為的現在における実践的 オリに指定する事によって、tist 横浜軍主義である」となで切りに く階級形成の軸をプロレタリアー さしく、独成NOTにあるがなど

作文にならざるを 得ない のであ

われわれはこのような年ーケル

底町線指に立って、不死鳥のよう

責任において、権力の存在基盤を しており、これの反照として検験一を止猟すべき内容としてあり

の時ではない。 田田町町大の大田町 テート的にすわりでとどを演員と 水田町等のなど者、田田町にかか、一名に変の地名の連り地ともののには、田田町であるだろ、一名に対した。 一名に対した 一学人・ではカールン 郷を持った。

米 領

事館

ヘデ

モ

| わり、 特点のこう。たま会の後、 数の悪の下、事命、人権闘争と協めて、十月、神戸世紀経前で行之。 野家奇歌拳・世界プロレカリア姓の『、 三官人の贈うがや高古民を楽』止ー月半時待日主達局時打相「世

の弥へルの間志語者に厳梱とした された明学大反答を探すり る革命の戦士諸君ノ 2革命の戦士諸君ノ・新たに将集へ第、全国の反帝航端に新集す

|内容とは一体何であるのか/ まーントの独内から発生した栄養機を えられ、立ち添れていること。後、学大芸科様体として、奈田子様をは続っている。だが、しかしての「せいぜい彼らにあっては差二次プー大学の自教発活性に覚察がの自動したとこの「雑乱は何よりも 旧門 トの措定から出発する党派を「粧」プント、政治議院第、三期間の風」会革命派が与み出される法院を有 累しえていないのであり、秀三次一家、ペ平道、ヒッピーといった社「左翼没顧主蹇」としてしか、理一って不断にノンセクト主体転載命

機様としてまき 思った気内商学 プントの統一教叙述として

権語している。

(発頭に)全軍労スト支援

現代ナショナリズム批判の展開

民

٤

級

高島善哉著

ている有機であった。 歌手」 いさて、おとかで聞いたと

以上の内容をもっものとしての地

帝戦線再建アピー

戦

を発生している。

| 1985年12月12日 | 19

の減酷そのちのが、発表の意工法、旧財學大皮部も領事の問題を理解 しの照界したが、まざしく覚想機論という ・)う、その意味では一般論でしか、こ、提高の表現としての領事」等とい

→ 一条大の政治課題にひきつけて国事 沖繩9 10

一時代である。

一日日、名かり

神戸9.10

て地区徴田丹油委員会を形成する 明確に発来の全共明一反戦にとう て代わる可たな統一動経液限とし ことによって初めて具体化される

繩 を索引する同盟建設 の戦闘的労学市

民

野学を発して、「戦争を組織する」の表現して、「戦争を組織する」の表現して、「戦争を組織する」の表現して、「戦争を組織する」の表現して、このないので、任日の参加として、このないので、なりないので、なりない。

るのは、昨年来の希腊派との党派

遊蜂部を沿回の目的としている表 松の機関としてのソビエトの戦を

を る。整って、売々のいう短尾共闘 あ。整って、売々のいう短尾共闘 ある。をので、売々のいう短尾共闘 のできれるがあるが高、本た

エト問担柄としての数をもった。 越区共闘とのものを目的

るのではなく明らかに権力が取破

「しかし、われわれは一般的に

を

ーソビエト巡邏簿の制出を内秀と

地区共野に向けた過程的概介的無

した気性的武装調学の路線の下、

とする社団合理労務所にはもちついて、全版労の表現労働者は、自の経済関係の権から一のも出まいに受けている基連の高、沖縄に対

いて、全国労の表現労働者は、自一級表地にするために、わが同盟を 1

現地に一切も早く花にせればなら を併算年舎戦争の無利にむけ

会の性格と研究所手の内容を処理 前妻を受けて次に接続行動器 後国行動委員会は前金にもあり

明らかに前述した会共間のもつ ものことは、現所我々が独し曲の て、プロレタリアへがモニーの世いる喧嘩的歴界を超えたものとし いる反情統一般病の革命的消費 的教介的推進問題としてある以上 もった地区共同を実施する選択 た令人民的団特の哲学組織性

ズムとその矛盾を総括的に解明。独占資本主義下の高度成長メカニ

宇野学派・俊英の現狀分析、

四六版上製

三八四頁

革新運動に科学的視座を与える の日 日転 現本 四六版上製 ータによって実証分析する。する日帝の構造と矛盾を、最新デ あからさまな帝国主義政策を展開 鎌倉孝夫著

本機 資に 主つ

大内秀明著

義

四二〇頁 七五〇円

宇野理論による日本帝国主義論 段帝 玉 主

しの小四をノ〇〇行動委員会」あるいにる表面にはなる表地周辺で「基地様去」の小四をノ〇〇行動委員会」ある いくという時い」ではければならない。 何をとおして、現在的には何めて の年代 (における) 統一晩報の再 るべき木塔的権力関係の時代に向 胸されるのではなく、たしかに、 けて、ブルジョア権力にとって代 であるが、より核心的には 以上のととを部分として合けるの 単に小四裁判闘学、蒸地横去国外 る製銀行動委員会の性格からして れる教授闘争は、我人の位展づけ わるべき目からの権力条体を、立 共同行動を展開していかなくては 以上のようなものとして創出さ

第 5

新装タイプ版 破防法特集

展的なものになりえない」という ても、決して本来的意味での全人 を有しているならば、その鍵帯は のであったとしても、脚帯立体

の創出、地区共野への統合」とい である。我大は「全共的の再報を たければならない。根にソビエト

統一物級の革命的官職、他们を実

1 部 100円 (月二回刊行) 共產主義青年問題飛圧対策委員会

ように)
夏季建度が全人民的なも
、東京的に統一衆終問題はたてられ
精合し……例え(安保特殊という)くのかということを核心として、

(程度)の団結の内容が、何えば、とは「従一感収の長さだ施」なの

うような映画形図書

限界性 があったのである。

「全国会共闘として(全国的に)

的に) なる閉若の質をもって形成してい助ち 恢复される表々の地方気体を傾何

問題はフピエーとして発表的に

もこの全国会共制でのものの内に

配にした昨年九月五日精吹された

常化の方面やな明らかに

的変貌として、秋初佐保決勢を四一たよれ。次に反帝衆一勢疾の宗命観察してきた足帝衆一般疾の疾体」以上のことを希提として強烈し

八號美麗として表々が創出し、

実験的回題がある。 化が無層の歯型として関われてくの反帝統一徴視の基角的再務、策

3 ٤ 0 0 弁護 7月号 NO.2

うるとが無く問われ、他って、

未決勾習について… 代用語激について - 久保田康史 -近藤勝 古潮駿介 懲罰に対する闘い-

監獄法(抜粋) 吳米軍彈薬輸送列車阻止醫等 無罪判決について・奥津亘

10.11月闘争公判関係資料(二)

英語学院学覧2-2-16 開争と弁護刊行会 第 8 (503) 5 8 5 8 5 8 5 8 7 1

独化がもっても拡展の速度として一个その意味で、階層附属学の資味 (おような) である。メクロを主義としたべつ単位階級割等にあっては はしたべつ単位階級割等にあっては はしたべつ単位階級割等にあっては はないが、 ・ 条は押いされないということです る。 自からの精力実体の倒出を深核的 て重要な意味を寄してくるので ては、権力既体を前何なる団結の の七〇単代既然関係にある 鬪争

特集・監獄法の今日的問題点

公判ノート機行問題に関する様中からの報告 懲罰に関する部内関係資料

ら自身が大変認知の中に議発できて、として大変滅、政 利力の大体的対抗を規則することできず、一種の不 事を確定が、全球が高端との行う。一種の一般 機会、報準に発性の機能した。われわれ自身 し の進かからの後別、気のが使じょうて楽 単常の発 会に続体されるのはまったく明らかである。

京方面等は領域的立総指をつきつけた。67年10、86年10、87年1、87年10、87年10年4、38回季の敗池は前年代等裁判予=大学的

三次共産同

石を固

めよ

えんと党派闘争】 【60年代闘争の

叛旗派

の解体を更に推

進

8

■爆焼の食への地化は火き みるよりも町 らかでき 漢朝家は何だし、増え家命とは関係のないサークルかけながらも、 べで滅殆にも程地しえず、 まじめな 数を同時に抑進せよう」とスローガンを持らかにか 趣味中へとおちこな「党の革命と大党運動の費的転

> 長韓、地化の方向性を明らかにす 裁人に関われて出ているのである 今とそ、八派法則として疾患され ていることを知識に示している。

しして、 反情統一般祭の革命的

る前機として、何故、発来の恐怖

とこに、会芸国の、巻って、

拠点、場所における職体を社会的時様への形式を

めに致治示命と 社会不由の帰院地 行、あるいは大

義か領性的武法割手として七〇年代所機関等の高

大衆組集力、関争の批選力を小 の実体的表現たる全国共同はその 温地と分析を認め、かつ八雅技師 選手を切り折く要求を出り

ることを語し「関係の不命」を機関すればする門 學表同休冷や、文化活動路へと回初の意を増し下げ い自治会、古くはゼ クトNO六 的体質の禁痍のた一歩をするだした時、 処理療は自分素が作用した古

てきた反情報一機様の革命的内閣 一般線がその西朝詞に含しかかっ たが朝出し、観察してきた豆花板 く低化させている。このことは多

所採金として全国オルグをもって全計和学の根据に いつきにしなんとか判害のびようとした根据派の政 日におけるわれわれの酸化!医療機器核液凝釋 が快煙に増や発する穀板液との気域関係は、

にわたるわれわれの正面機の棒利、そして 六月一一日、共産主義項回盟政治集会に対する集

帝籍派は六十年代開教師第一通会の形装上に新たとの願いなのである。 した時に必然的にぶつかるととこの我々育身の済去を終めたして行うのか、そのことに答えようと「國際主際」と「理報された暴力」の意矩的形態の

な殷級闘争の有限を参加し、六〇年代後年の大衆的

(第二次ブントの

等級闘争の首覧をくぐりねけ、第二次プント電談へがしかし第二次プントの党内一党授額祭は次十年代

解体の推進】

育

そのこ

とをも対象化しようとした時、いいかえれば

表践が「ش路路」前内容をいかにして均穏するのか その解答の一つとして接起された「他の革命」は

、社会革命統一サークル集団=教技術の政治的原わが共産主選者同義の一層の気の革命の親化の中

判決文

憲」(一十三号)をそれをの条配的理解のために「

果して六〇年の後国際的連想は旧コミンテルン残骸による後期以いっても適当ではない。
たしかに、わが同野(音一次)

問われた世界党

への自己形成

職員経済決定論的監察と、その待

心と経験を由界層から切りはなし 商財相適的提示があって政治的課

かかる素質には、高命語=戦略

左翼反対の力率とDN 南口が映しによって主機的なスターリン立憲 私は、この様点にたてこるうことと

の語言・管理・高男の奇響となる。

がかかる傾向を作用した。

それはボースに東が六〇年安徳・安保哲学への政治部様化を問題的

の政治程法内闘争とトロツキズム 保護等の終火の 試嫌のなかでで

せんがためにのべたのである。

の前史-日共スターリン主楽と との媛煕な分数闘争と、六〇年安むしろ、この~1三号は何要求 く、国際共衆主産運物-日共ば満はない。 - 出来合いの寮合的請求とじてはな

ある。復刻の添木的愛養と豪國 二月)と酢せて終まれるべき任格 リー・七等のうち、一・二等ま、遺信」・一大学(五八年九月-十年間) プロレネリア

一 年八月、会国委員会派(原田)と
本 久)に分裂し、さらに極兴同は五 人格 件集建)と標準版(反 帝・反 ス が 作集建)と標準版(反 帝・反 ス が

グループとプント特別への途径多数指的誘摘としては独自の会学通

多 らに、革命速動史上の、この六〇 適 かかる理解の上にたってみるな。

主義との結節点を形成しつつも、

関係派へと除頭を「天力製を上げ、財(全国実験)も、トロッキ大人、連動が国際共和主義的に付して、年代、月、全国委員会際、原田」と 第二次会別によって中れた繁華、いて、わが開発(第二次)の利納によった。 年を前継すると言ろの歌動剤におく。 に会別し、さらに議判院は五、人だのであった。

0

年 鬪

争

0 国 会 前 Ø

激 闘 共産主義」

0)

復

刻

に あ だ

つ

して「共衆主義」
五号にまとめら

表」一一三点の張小評価を納除す

えばかった時代 (ごれは巻) 次大

次同盟

の組織的苦闘を

の進撃

ができる。このように無一次何要

元年-六〇年の国際-日本町要

になったのである。一台時、 りの市一次问题は早人に労働新駆 さしいけれども、帝一次回費の把

的観点について個別に適じられて(一次)の政治ー起指理論の基本 兼は、おおむれ、共成主選後問題

は、おおむね、共衆主義後問題 は能能的には五九年一月一六月と「共衆主義」一・上等所載の文 るであつう。そこでとの一・三時

の階級的根拠 第一次同眾成立

一 対象的であった人々をも」が行动 して三日性には、対象的関係に在いたがと、の様に「それに、「この書きは物化」と、そうに考えて、それに顕命しれた。 第の人主し対外を押されて、と、そうに考えて、それに顕命

った。その一環開後「電汽取住来して二百巻には、京都前置所に在

門は対する場所に表面」が「喉」とも比やくら球じょやな)で「人」等と「とうから」と「かない。 おれ その 透開後 『微微鏡音』 英雄の名の (高級鏡音 海外 (電波鏡音) 文を引き、大きして、多様語)(南文:(高波鏡音) 女権の子で、大きしているから) あそした。

をそら会一に参加」に改めら その後、今日まで「捕獲」生活型用に受対し「使助法変異的」配表された。

ゅうしゃく

|関)をやりつつも他方では「外」 | 海に「歴り」にもえる

加えられるのみならず、私信まで

用が「勝利」でもなければ「裁判

Z

防法裁判闘爭新展開

食、または、グループの余 ● その他、右の目的に紹う活

ける。赤海、を中心とした

9 • 17

支える会が三九氏の発起人で発足

カイショウとドウザウにの7世 アメリカの管理・発は、アジブ | 本ののおおお出りといって、皮 | この17 11日の入野さら、大 お演出していている。 たくのこのとの (大) 11 11日の 11 11日の 11 11日の 11 11日の 11 11日の 1

恵 らも前らかなように善屠主護は、一 さずりこまれている。このことか るよ 民 の世界総略 の前にどう名に引 和 きづまり」の打筒に必死である。 革命戦争の時代にあってなんと人 機にみられたように、循係生差がラテンアメリカでもウルガイの米 大徳ら湯かい=一〇〇令人の政治

国際情勢は、その影響で不安定に一義との語いの中で一層的画なる

ちに泉香が、アジ

る。革命教学、の異婚と展現にむ労働者院級の。革命の策隊、によ

このようにして日本帝国や憲は

の ジアの米帯と不命勢力の内型の中 ・ 特に、日本帝国主選にとって、ア 中文が指導することによって。局、〇・八世隊の革命的人民の冒方の一七の博が、自三時頃、でうめるか「争とか解教態参等)に呼称し、一十分の権遂した場合、その収白を、とも、の、革命戦略、(ダリラ総子がら獲遂した場合、その収白を、とも、の、革命戦略、(ダリラ総子)

十分な時間力を準備すればよい。 地的粉件が習得になる」 の助新力で、対処することが、を糖に、素命の無限、に再動物化

報合的な匿士領一門られた力を有一 地方自治体、単層団体と新び、政府の関立

している。そして「民間皮板で標 一層が走り、特にアジアで

崎・ソープン 堂書店、川崎日航ビル内)

芳林堂・高野書店(池袋西口)

文献邕書店(高田馬場下車) 吉祥寺ウニタ書店(吉祥寺下車歩五分)

東京ウニタ書店(神田水道橋下車)

ベストセラーに! (就養新聞調べ)

経済構造社

残 部 僅 少 (中卷) 10月15日発行

世紀が、既次時の統計方向を提示、内轄學、党派哲学をみても明から

申込受付先

振岑 東京九五七四〇

武蔵野吉祥寺本町二一二〇一 TEL (0422) 22-9 6 1

共産間のとの題いに対 て、問組物を中心にして反 は、今日まで、どこにも慰されていません」の後に「しかし、これいません」の後に「しかし、これ 方の相談を観えた広衛な抗闘逐奏 ような、運動の立場を観え、考え ような、運動の立場を観え、考え 若干の訂正付切があるので次に 授後田光輝(紫)」 ぞもとにした これは、本紙二三七号「鉄路 大学 (中でもあるわらでは新じたない) する内側 | 世界等の (中では、東京 (中でもあるわらでは新じたない) 「 東京 (中では、東京 (中では、東京 (中では、東京 (中では、東京 (中では、東京 (中では、東京 (中では、東京 (中では、東京 (中で)) 「 東京 (中で) 「 東京) 「 東京 (中で) 「 東京 (中で) 「 東京) 「 東京 (中で) 「 東京 (中で) 「 東京) 「 東京 (中で) 「 東京 (中で) 「 東京) 「 東京) 「 東京 (中で) 「 東京) 「 東京) 「 東京 (中で) 「 東京) 「 東京) 「 東京 (中で) 「 東京)

政治警察との闘争に勝利し 命党の時代を不屈に進撃 せよ

一、この会は、敵防狂薬用に反対 を支える会会規
破防法裁判闘争

などで注述での聞いに努力す

が子原される敵防法裁判闘争をし、長期にわたるであろうこと

の 玻防法と級防法裁判に関す ● 榜雜、資料収集、立証售力 ● ニュースを発行し、ひろく

| 対しハレンチにも狂気の「廃圧」| 力の手先になった返中や集力の狂| 権力ともは、いみじく| にある私の家様・載せき・成人に| しかし「裏切り者」となり、権| 示しているではないか! 京都拘置所 大

が問題を、文字廻りの「旌所」等 気の際圧は、ますます私の家族、 うな意面目で映画な「権力ともに、助ひうと必要となっている。 たりの生活だ!」さらに「若のよ、命の痕跡」と、他の策、の和令を

れなくし軽視をおわれた。 交ある 師」に他ならない。 かけ上夜にデマケ流し、 晩想にお 命気にきたえるげて 蚊るぎには新ように映場におし が同原を、 文字海り

のはて、ささいなことで検察され

どうかつ・おとし」をくりかえし

ア、イラク等に対しナセルを中心

の提案(?)によって、基 間でやってくるだろう。

「大会多連指導を基準としたが、 次回要はの改革を次に接続していたに違べしていったかという (関西語)との対比においては、 大学、 国際条件の 事業を必要を いまいたに違べしていったかという (関西語)との対比においては、 またのかに追求していったかという (関西語)との対比でおいては、 機構的内容で統計することができ 六〇年安徳改定は同時に総後日。詳一整際法理等の教理と日本労働

幾一問山と委良鉱機様化の首切り 無」方式による炭鉱資本青睐の転 だが第一次同類は、かかる労働出していった。 を強関し、それへの余をひらいた

あ(他)に暗らいることによって、か、独(政策的処議主要(社支労団その) 争にむけて、との巨大な気会 クマールとしつつも、七〇年代例 前所部隊一党領を軸に革命の国際 そして、七二年をひとつのメル

はかって長期にわたる商祭の孫独たかでも二抵逃、ことに三井三権

的にも透現せしめられた。

れ芸術した調学を提出せんとした。

進」と併称せられたように、日本一製の結果として続すにとど話った。 同盟分配の合戦やいる階級的事態は「学像と三一膜主達の合製さどの名的、同盟分配 のであった。もとより、 ねに問われ続けてきた。それ故、 本的任務は、関略共和主英語物 他一年存代他の故である。同僚の女

「政治議長論」的体表は「総領

昨新田寺を終て、また徳内、

患命党の後多般士の。四、

一〇門大会・搭摘・大会にせより、

労働退動の多くの問題がこの問題

プント宗義(信説・仮照)ととも たんなる物質主義、教師項の機

て接続期間様がこの立場が代非し、小ブル係指生薬、等人の影響的獣の類似、かの第二次開墾の面内の倒略等という解析であり、まとし、「ブントー業が内部自然発出物」、なく、多くの影響的労働者、数年 館衙部院の党の衛を形成しなけ

の革命的意義

一界水準の差での扱いことは製造

治安政治教修に総治教人

覆刻委員会編

世界階級鬪爭に 共産主義者同盟の歴史的理論機関誌

上卷 市販980円